



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
 東京都中央区日本橋本町4-3-8
 担当
 TEL(03)3270-2701
 FAX(03)3270-2720
 緊急連絡 同上
 改訂日 2020/03/02
 SDS整理番号 09156250

製品等のコード : 0915-6250
 製品等の名称 : 酢酸イソプロピル
 推奨用途 : 試薬

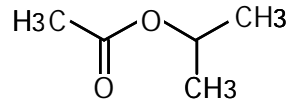
参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
 塗料用溶剤、印刷インキ用溶剤、反応用溶剤、医薬用抽出剤、ペリー、果実、
 洋酒系等食品香料、ネイルエナメル、エナメルリムーバー など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | |
|-----------------------|-------------------|
| 物理化学的危険性 引火性液体 | : 区分2 |
| 自然発火性液体 自己発熱性化学品 | : 区分外 : 区分外 |
| 健康に対する有害性 急性毒性(経口) | : 区分外 |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | : 区分4 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : 区分3 【国連GHS分類】 |
| 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 | : 区分2A |
| 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) | : 区分3(気道刺激性、麻酔作用) |



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
 吸入すると有害(蒸気)
 軽度の皮膚刺激
 強い眼刺激
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地すること、アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
 皮膚を大量の水と石鹼で洗うこと。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
 【保管】
 日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。
 【廃棄】
 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：単一製品
 化学名：酢酸イソプロピル
 （別名）酢酸1-メチルエチル、イソプロピル=アセタート、
 2-アセトキシプロパン、酢酸2-メチルプロピルエステル、
 酢酸 sec-プロピル
 （英名）Isopropyl acetate (EC名称)、Acetic acid isopropyl、
 Acetic acid isopropyl ester、Isopropyl=acetate、
 Acetic acid 1-methylethyl ester、
 Acetic acid, 1-methylethyl ester (TSCA名称)
 成分及び含有量：酢酸イソプロピル、97.0%以上
 化学式及び構造式：CH₃COOCH(CH₃)₂、C₅H₁₀O₂、構造式は上図参照(1ページ目)。
 分子量：102.13
 官報公示整理番号 化審法：(2)-727
 安衛法：公表化学物質（化審法番号を準用）
 CAS No.：108-21-4
 EC No.：203-561-1
 危険有害成分：酢酸イソプロピル
 ・労働安全衛生法 表示対象物 政令番号 182
 通知対象物 政令番号 182
 危険物・引火性の物
 有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤等
 作業環境測定基準、作業環境評価基準
 ・消防法 危険物第4類引火性液体 第一石油類 非水溶性

4. 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
 皮膚に付着した場合：直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
 速やかに、皮膚を大量の水と石鹼で洗う。
 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
 目に入った場合：直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから
 ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水
 で洗浄すると、かえって目に障害を起すことがあるので注意する。
 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの
 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、
 洗浄を続ける。
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
 飲み込んだ場合：直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせない。
 強制的に吐かせると、本製品が揮発性のために嘔吐物の一部が肺に入り
 高熱が出て出血性肺炎を引き起こす危険性があるため、水などを飲ませ
 て無理に吐かせてはいけない。
 直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
 意識がない時は、何も与えない。
 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
 予想される急性症状及び遅発性症状：
 吸入：咳、嗜眠、頭痛、咽頭痛
 皮膚に付着：皮膚の乾燥、発赤
 眼に付着：発赤、痛み

経口摂取：腹痛、めまい
 医師に対する特別注意事項：必要に応じて有機溶剤用の防毒マスクを着用する。
 火気に注意する。

5. 火災時の処置

- 消火剤：本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。
 粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがある。）
 特有の危険有害性：引火性が極めて高い。
 極めて燃え易いので、熱、火花、火災で容易に発火する。
 引火点(2)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
 本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法：火元への燃焼源を遮断する。
 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は風上から行き、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 油又は有害液体物質による海洋の汚染の防止のため、海上で薬剤を使用する場合は、国土交通省令・環境省令の規定に適合すること。
- 回収、中和：乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：危険でなければ漏れを止める。
 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策：裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
 引火点(2)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
 炎、火花または高温体との接触を避ける。
 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気：作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。
 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。

- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管
技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の
軽々な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な
傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件 : 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
必要に応じ施錠して保管する。
必要に応じて、危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 酸化剤、ハロゲン類、強酸、アルカリ性物質
容器包装材料 : ガラスなど。
アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。

<参考> 容器包装材料の室温における耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 ×:不良 - -:データなし 】

スチレンゴム× クロロプレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム× ブチルゴム
天然ゴム× シリコンゴム× フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)× テフロン
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
軟質塩ビ× 硬質塩ビ× ポリスチレン× ABS× ポリエチレン ポリプロピレン
ナイロン アセタール樹脂 - アクリル樹脂× ポリカーボネート× ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 100ppm
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):
日本産衛学会(2018年版) 設定されていない
ACGIH(2018年版) TLV-TWA 100ppm
TLV-STEL 200ppm
- 設備対策 : 防爆の電気、照明機器を使用する。
作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を
設置する。
静電気放電に対する予防措置を講ずる(アース等の使用)。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置
する。
- 保護具
呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
手の保護具 : 保護手袋を着用する。
ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。
ネオプレン製が推奨される。
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用
する。
皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 無色の液体
臭い : 芳香臭(果実様臭気)
pH : データなし
融点 : -73
沸点 : 89
引火点 : 2 (密閉式)
爆発範囲 : 下限 1.8vol% 上限 7.8vol%
蒸気圧 : 5.3 kPa (17)、 8.05 kPa (25)

| | |
|-----------------------------------|---|
| 蒸気密度(空気 = 1) | : 3.5 |
| 20 °Cでの蒸気/空気混合 気体の相対密度(空気 = 1) | : 1.15 |
| 比重 | : 0.868 ~ 0.873 (20/20 °C) |
| 溶解度 | : 水に混和する(溶ける)(4.3 g/100mL, 27 °C)。 エタノール、ジエチルエーテルなど多くの有機溶剤に混和する。 |
| オクタノール/水分配係数 | : log Pow = 1.3 |
| 自然発火温度 | : 460 |
| 分解温度 | : データなし |
| 臭いのしきい(閾)値 | : データなし |
| 粘度 | : データなし |
| GHS分類 | |
| 引火性液体 | : ICSC(J)(1998)による引火点は2 (密閉式)で23 未満であり、 かつ沸点は89 °Cで35 °C超であることから、区分2とした。 引火性の高い液体および蒸気(区分2) |
| 自然発火性液体 | : 常温の空気と接触しても自然発火しない(発火点460 (ICSC(J), 1998)) ことから、区分外とした。 |
| 自己発熱性化学品 | : データはないが、国連危険物輸送勧告がクラス3 (国連番号1220) であることから、区分外とした。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--|
| 安定性 | : 通常の取扱条件において安定である。 光のばく露により、徐々に分解する。 |
| 危険有害反応可能性 | : アルカリと混触すると加水分解し、酢酸とイソプロパノールを生じる。 本品の蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。 本品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり 遠距離引火の可能性がある。 強酸化剤、強塩基、強酸と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。 アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。 |
| 避けるべき条件 | : 熱、日光、裸火、スパーク、静電気、その他発火源 |
| 混触危険物質 | : 強酸化剤(硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど)、 強塩基、強酸 |
| 危険有害な分解生成物 | : 一酸化炭素、二酸化炭素 |

11. 有害性情報

| | |
|------------|--|
| 急性毒性 | : 経口 ラットのLD50値として、3,000 mg/kg (ACGIH (2003))、12,500 mg/kg (雌) (SIDS (2008)) との報告に基づき、区分外とした。 経皮 ウサギのLD50値として、> 17,436 mg/kg (雄) との報告 (SIDS (2008)) に基づき、区分外とした。 吸入(蒸気) ラットのLC50値(8時間)として、12,114 ppm (雌) (4時間 換算値: 17,132 ppm) との報告 (SIDS (2008)) に基づき、区分4とした。 なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度(794,669 ppm)の90%より低いため、 ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。 吸入すると有害(蒸気)(区分4) 吸入(ミスト) データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | : ウサギに本物質(未希釈) 0.01 mLを24時間開放適用した試験において、 刺激指数は1(最大値10)であり、刺激性はなし又は軽度の刺激性あり との報告がある(SIDS (2008))。また、ウサギに本物質500 mgを24時間 適用したドレイズ試験において、軽度の刺激性がみられたとの報告がある (ACGIH (7th, 2003))。 以上の結果から、区分3とした(国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分外である。 軽度の皮膚刺激(区分3) |
| 眼に対する重篤な損傷 | : 眼刺激性: ウサギを用いた眼刺激性試験において、刺激指数は2 (最大値10、指数1は原液0.5 mL適用により小範囲で壊死がみられる場合に 相当する)であり中等度の刺激性と判断されている(SIDS (2008))。 また、角膜に対して腐食性を示す可能性があるが、症状は3-10日以内に 回復するとの記載や(PATTY (6th, 2012))、ヒトの眼に対する刺激性を 持つとの報告がある(PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2003))。 一方で、標準的なドレイズ法による試験において、刺激性は軽度であった との報告がある(ACGIH (7th, 2003))。 以上、中等度の刺激性及び腐食性の可能性との記載から 区分2 Aとした。 強い眼刺激(区分2A) |
| 呼吸器感作性 | : データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感作性 | : データ不足のため分類できない。 なお、モルモットを用いた皮膚感作性試験において、感作性はみられな |

- 生殖細胞変異原性 : かつたとの報告があるが (IUCLID (2000))、試験法等の詳細について不明であるため区分に用いるには不十分なデータと判断した。データ不足のため分類できない。
- 発がん性 : In vivoでは、本物質のデータはない。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性である (SIDS (2008))。なお、本物質はin vivoで急速かつ完全にイソプロピルアルコールに分解される (SIDS (2008))。イソプロピルアルコールはin vivoのマウス骨髄細胞小核試験で陰性の報告がある (SIDS (2008)、JECFA FAS42 (1999))。
- 生殖毒性 : データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載がない。ヒトのデータはない。実験動物のデータは限られるが、雌雄のラット、マウスを用いた2年間吸入ばく露発がん性試験で、マウスでは雌雄とも発がん性がみられなかった。ラットでは、雌に発がん性はみられなかったが、雄に腹膜中皮腫の発生増加傾向が認められ (中皮種の出現数: 対照群2匹/50匹、1000 ppm群2匹/50匹、2000 ppm群1匹/50匹、4000 ppm群7匹/50匹、4000 ppmで統計学的有意差あり)、4000 ppm群での中皮種の発生率はヒストリカルコントロールデータの範囲を上回ったとの報告がある (厚生労働省委託がん原性試験 (2009) : 日本バイオアッセイ研究センター (2009))。以上より、雄ラットでの発がん性が示唆されるが、片性のみ陽性データであり、他の陽性報告が認められないため、分類できないとした。
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : データ不足のため分類できない。本物質はヒトに気道刺激性がある (ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012))。実験動物では、マウスの1605 ppm (6.7 mg/L) 吸入ばく露 (時間不明) で中枢神経抑制 (活動低下) の報告がある (ACGIH (7th, 2001))。この所見は麻酔作用とみなした。以上より、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。中枢神経系の障害のおそれ (区分2) 呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
- 吸引性呼吸器有害性 : ヒトでは皮膚接触により、反復刺激による皮膚局所の傷害が生じるおそれがある (ACGIH (7th, 2001)) との記述以外、反復ばく露影響に関する報告はない。実験動物ではラット又はマウスに本物質蒸気を13週間、又は2年間吸入ばく露した試験において、ガイダンス値範囲を超える区分外の高濃度 (1000 ppm 超: ガイダンス値換算: > 4.2 mg/L/6時間) で、鼻腔の組織変化 (嗅上皮の萎縮、呼吸上皮のエオジン好性変化) がみられた (厚生労働省委託がん原性試験 (Access on December 2014))。なお、SIDSは本物質の代謝物であるイソプロピルアルコールの反復吸入ばく露試験結果により本物質の有害性を推定しているが、ラット及びマウスに13週間吸入ばく露した結果、ガイダンス値範囲を超える1.23 mg/L 超で、中枢神経抑制症状、赤血球パラメータの減少、及び肝臓相対重量の増加がみられたと報告している (SIDS (2008))。以上、実験動物では吸入経路で区分外相当と考えられるが、他経路における毒性情報、ヒトでの有害性知見がなく、データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : 甲殻類 (ブラインシュリンプ) LC50 = 110000 µg/L/48H (AQUIRE (2003)) に基づき、区分外とした。
- 水生環境慢性有害性 : 難水溶性でなく (水溶解度 = 4.3 g/100 mL、27 (ICSC(J)))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。(参考) (1) 燃焼法

可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。

- (2) 活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
汚染容器及び包装：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号：129

国際規制

海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）

UN No.：1220
Proper Shipping Name：ISOPROPYL ACETATE
Class：3（引火性液体）
Sub risk：-
Packing Group：II
Marine Pollutant：No（非該当）
Limited Quantity：1L

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No.：1220
Proper Shipping Name：Isopropyl acetate
Class：3
Sub risk：-
Packing Group：II

国内規制

陸上規制情報（消防法、道路法の規定に従う）

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

国連番号：1220
品名：酢酸イソプロピル
クラス：3
副次危険：-
容器等級：II
海洋汚染物質：非該当
少量危険物許容量：1L

航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）

国連番号：1220
品名：酢酸イソプロピル
クラス：3
副次危険：-
等級：II
少量輸送許容物件

特別の安全対策

：危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法：名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号 第182号「酢酸プロピル」、対象重量%は 1）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号 第182号「酢酸プロピル」、対象重量%は 1）
（別表第9）
危険物・引火性の物
有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤等
作業環境測定基準、作業環境評価基準
消防法：危険物第4類引火性液体、第一石油類 非水溶性液体 指定数量200L

| | | |
|------------------|------|--|
| | 危険等級 | (法第2条第7項危険物別表第1) |
| 毒物及び劇物取締法 | ： | 非該当 |
| 化学物質管理促進法(PRTR法) | ： | 非該当 |
| 船舶安全法 | ： | 引火性液体類(危規則第2,3条危険物告示別表第1) |
| 航空法 | ： | 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) |
| 海洋汚染防止法 | ： | 有害液体物質 Z類物質(施行令別表第1) |
| 水質汚濁防止法 | ： | 生活環境項目(施行令第三条第一項) 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排水基準〕160mg/L以下(日間平均 120mg/L以下) (注)排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は それに従うこと。 |
| 輸出貿易管理令 | ： | キャッチオール規制(別表第1の16項) 第29類 有機化学品 HSコード(輸出統計品目番号、2020年1月1日版)：2915.39-990 「酢酸のエステル - その他のもの - 2その他のもの - その他のもの」 |

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献

| | |
|---|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM | |
| GHS分類結果データベース | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。